

# 日本の対中国産学官協調の 事例と大学の役割

H27年度 日中大学フェア & フォーラム

「日中産学官連携の現状と動向

～日中産学連携の課題の視点から～」

2015年8月26日(水)

国連大学3F ウ・タント国際会議場にて

職業能力開発総合大学校

校長 古川 勇二



概要: ①本シンポの目標を下記の視点から議論

②本校活動に関する日本語と中国語pptを配布

1. 経済産業省産業クラスター計画として、首都圏産業活性化協会(TAMA)会長を3期15年間務め、国際活動の一つとして上海に支部を設けた、その概要報告。
2. TAMA協会の参加大学の一つである東京農工大学は、大連理工大学と提携し、機械系を中心に教員を派遣し現地講義を行い、毎年、学生の受け入れも行っている。その概要報告。
3. 本年から開始した広州佛山市のM & N(Michigan Nankai)公司建設案への我が国の参加状況と今後のあり方を紹介。



# 1. 産業クラスター計画(経産省)

# TAMAクラスター

## 第1期(2001~5年):立ち上げ期

・クラスターの実態と政策ニーズを踏まえて、国が中心となって進める産業クラスター計画プロジェクトとして20程度を立ち上げ、自治体が独自に展開するクラスターと連携しつつ、産業クラスターの基礎となる「顔の見えるネットワーク」を形成する。

## 第2期(2006~10年):成長期

・ネットワークの形成を進めるとともに、具体的な事業展開を進める。同時に企業の経営革新、ベンチャーの創出を推進する。必要に応じてプロジェクトの見直し、新たなプロジェクトの立ち上げを柔軟に行う。

## 第3期(2011~20年)自律的發展期

・ネットワークの形成、具体的な事業展開を更に推進していくとともに、産業クラスター活動の財政面での自立化を図っていき、産業クラスターの自律的な発展を目指す。

## 第1期(1998~2002年):立ち上げ期

・東京都多摩地域、神奈川県、埼玉県を含む製品開発企業が多い地域を連携し、産業クラスター計画を試行。参加企業300社、大学30校、団体40等で開始。地域の産学官連携を開始。

## 第2期(2003~2007年):成長期

・ネットワークを完成し、製品開発を主として地域産業の発展を支援。  
・米国、カナダ、イタリア、ドイツ、中国、韓国との交流促進。

## 第3期(2008~2012年)自律的發展期

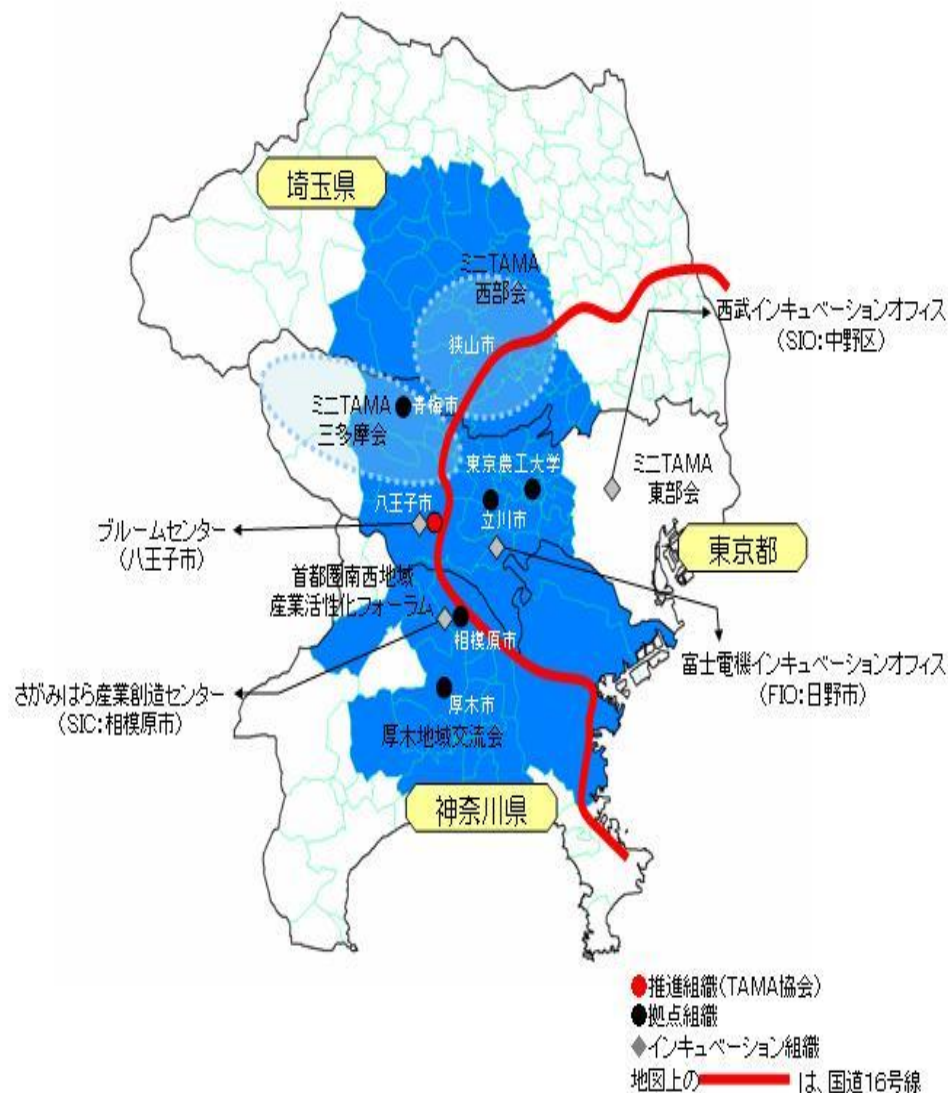
・主として国の補助金により、2~3億円/年の予算により、自律的發展の基礎を形成。  
・産学官金連携による製品の開発・製造・販売を達成し、**中国を中心に海外連携を促進。**

## 第4期(2013~)

・クラスターの自律發展を可能とするための事業の展開、財政・組織の安定を図る。



# TAMA協会のエリア



東京都多摩地域、神奈川県、埼玉県を含む製品開発企業が多い地域。

約300社、40大学、50自治体他

関東経済産業省の認可を得た産業クラスター

産学連携・研究開発支援

販路開拓・海外展開支援

人材確保・定着支援

TAMAブランド

情報ネットワーク事業

会長

第一期:1998年~2003年 古川

第二期:2003年~2008年 古川

第三期:2008年~2013年 古川

第四期:2013年~

2014年~

田嶋

奥村







# TAMA上海事務所の概要

• 上海工商業聯合会の協力を得て、上海外灘（ワイタン）にある工商連の所有するビルの一部を借用。展示室・事務所を開設

• オープン：2010年3月～

• 住所：上海市延安東路55号  
（近江西中路口）

上海工商連大廈5階508室



メニュー	サービス
展示・マッチング機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本ディスプレイ無料(展示形式のご希望があれば要相談)</li> <li>• 中国上海現地企業とマッチング(年6回程度イベントを開催)</li> <li>• 中国企業とのマッチング後のフォローについて相談</li> </ul>
現地事務所機能(オプション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電話秘書：現地拠点代行サービス(中国の連絡代行事務所として利用可能(郵送住所・電話・FAX・メールの授受))</li> <li>※ 複雑な相談については、別途コンサル契約が必要</li> <li>• インターネット、共益費、水道光熱費等の経費は無料</li> <li>• 輸出入の代行可能(手数料、実費のみ負担)</li> <li>• 会議室、応接室の無料利用(予約が必要)</li> </ul>
コンサルティング機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中国の企業のHP等を調査する等の簡単な御社のビジネスのマーケティングリサーチは無料。(中国専門家によるマーケットリサーチ等については別途見積)</li> <li>• 毎月の業務報告</li> <li>• 各種オプションサービスのご相談</li> </ul>



展示室内



事務所スペース

展示台  
15台設置

## ・最近の中国ビジネスの難しさ

### ○中国企業の信頼を得る

- ・ 中国市場へは、日本企業のみならず欧米企業がその市場を求めて奔走している。
- ・ 中国企業への驚くような提案が無いと、中国企業からの信頼を得にくい。

### ○ビジネススピードに付いていく

- ・ 中国企業はトップの意思が会社の絶対意思である→判断スピードと対応も早い。

### ○ビジネスパートナーとして継続していく

- ・ 人件費の高騰が著しい→製品等に付加価値を付けていく

∴新技術の提案→日中間による産学連携の必要性

- ・ その技術を通して、長期間のイコールパートナーとしての関係を継続していく。

## ・最近の日中関係の悪化の影響

- ・ 中国展開→政治的問題→積極的な販路開拓の困難性
- ・ 日本企業だけに限らず、中国企業も日本企業との連携は政治的なリスクを伴うと認識
- ・ 台湾企業との連携→台湾もしくは香港経由で中国大陸への展開の必要性
- ・ 日中大学間連携を基礎とした産学連携の構築が必須

## 2. 東京農工大学と中国大学との連携事例

職業能力開発総合大学校は厚生労働省所管のため、海外連携はない。

- 上海理工大学 浙江大学 1985年10月
- 浙江大学 1986年6月
- 南京林業大学 1987年6月
- 華東理工大学 1998年8月
- 中国農業大学 1998年10月
- 東北林業大学 1999年9月
- 南京農業大学 2000年2月
- 瀋陽農業大学 2000年3月
- 東華大学 2000年8月
- 東北農業大学 2002年1月
- 貴州大学 2004年9月
- 北京郵電大学 2006年5月
- 上海交通大学 2007年8月
- 機械工学院
- 雲南民族大学 2008年4月
- 北京林業大学 2008年10月
- 大連理工大学 2008年6月
- 清華大学 2008年7月
- 中国環境科学研究所 2010年10月
- 蘇州大学 2013年3月
- 上海市農業科学院 2014年9月



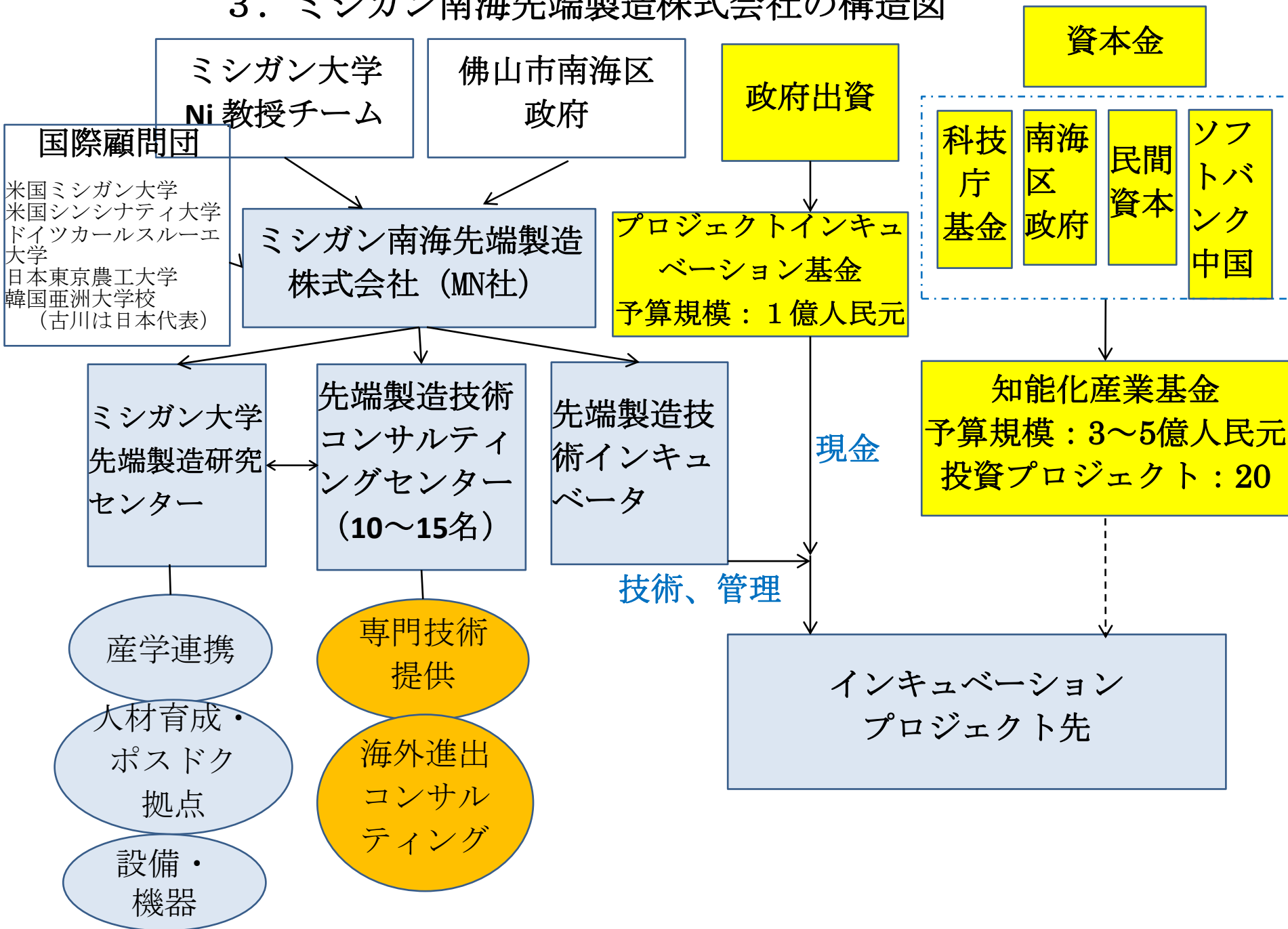
# 東京農工大学と大連理工大学の連携

- 中国留学生8名／年  
(アジア人財資金構想、科学技術短期留学プログラムなどの活用による)
- 大連理工大学機械工程学院日本語強化コース1年生約60名を対象、2単位の科目「**機械工学概論(2単位)**」を日本語で実施。  
農工大機械システム工学専攻教員4名の集中講義、機械工学の基礎、農工大での最先端の研究内容を紹介。

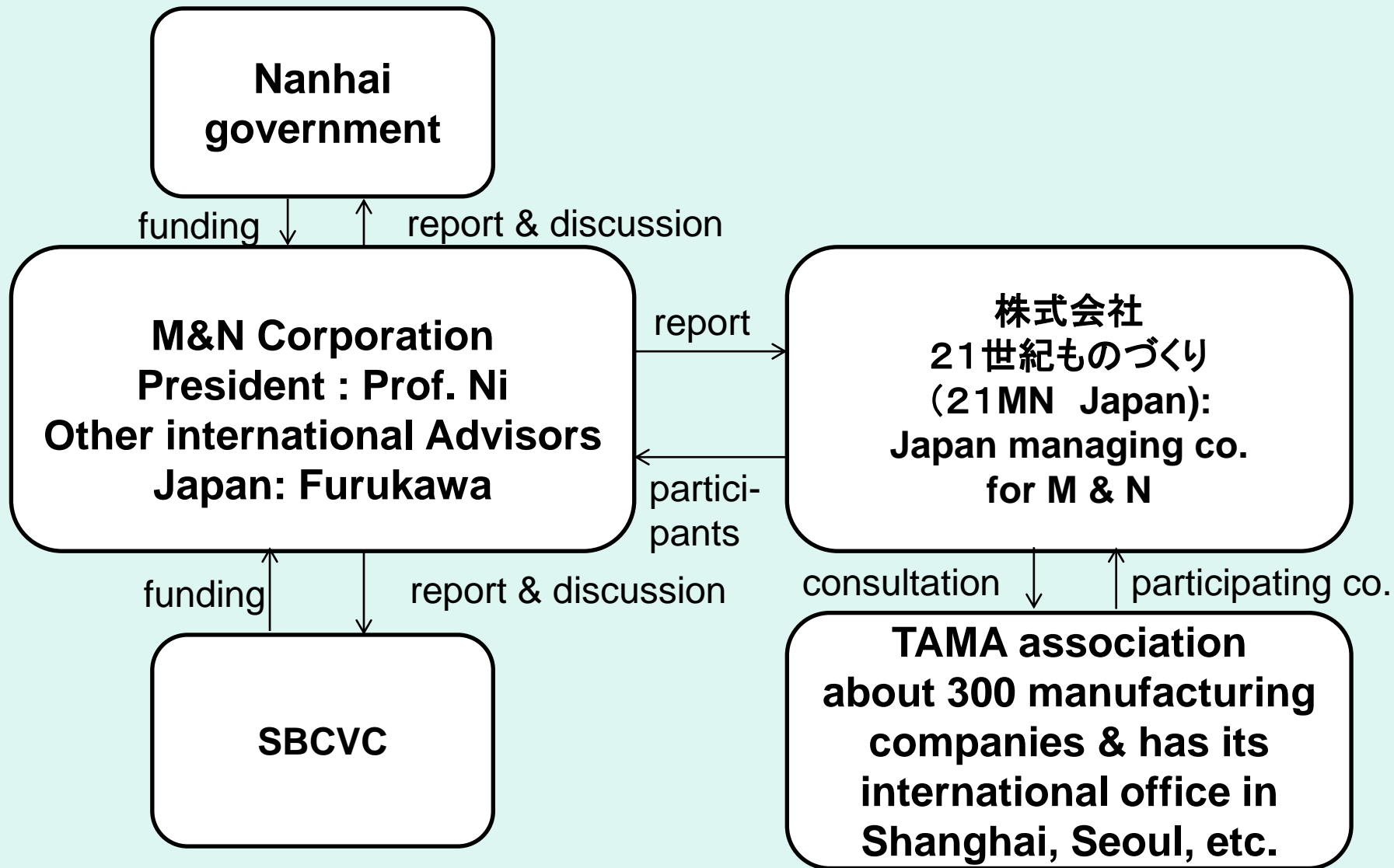




### 3. ミシガン南海先端製造株式会社の構造図



# Japan-China & other country's collaboration idea



***Thank you for your kind attention !!***



**If you have any question, feel free to ask me at the following e-mail address.**

**[furukawa@uitec.ac.jp](mailto:furukawa@uitec.ac.jp)**

